

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要			
建物名称	旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事	BEE	1
		BEEランク	B+
			★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.5 / 5		ふつ ³
2 地球温暖化対策の推進	3.6 / 5		ふつ ³
3 豊かな自然環境の確保	2.6 / 5		がんばろう ³
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつ ³

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつ ³ 3 点以上	がんばろう ³ 3 点未満
-------	----------------	-----------------------------	--------------------------------

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.5	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.5	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.4
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6
<自由記述> ・グリーン購入、エコマーク商品の採用		<自由記述> ・給水管、給湯管で耐用年数の長い材料を採用	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.6	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.2	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述> ・省エネ機器の採用		<自由記述> ・節水型機器の採用(自動水栓、祇園装置、節水型便器)	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.7	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>		<自由記述> ・既存部分を含め敷地内に緑地整備	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標	
<自由記述>		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 0.63	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: - 0.89	
		外構緑化指数 26%	
		建物緑化指数 0%	

: 入力欄 : CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市門司区新門司北1-3-7-8	構造	S造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	90 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2023年1月10日
敷地面積	24,306 m ²	作成者	稲葉 伸夫
建築面積	2,934 m ²	確認日	2023年1月11日
延床面積	4,327 m ²	確認者	稲葉 伸夫



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他
・敷地内の他の建物と色調を統一、周辺景観とも調和させた。	0
Q1 室内環境 ・F☆☆☆☆建材を使用。 ・喫煙室を4F(屋上)に設け、施設内と分煙を行い空気質環境に配慮。	Q2 サービス性能 ・階高、天井高にゆとりをもたせ、室内空間の開放感を高めた。
Q3 室外環境(敷地内) ・敷地内に緑地を設け、温熱環境に配慮した。	
LR1 エネルギー ・複層ガラスを採用し熱負荷の低減に配慮 ・高効率(LED)を採用しエネルギーの削減	LR2 資源・マテリアル ・現場発泡ウレタンフォームはノンフロンを採用する。 ・節水コマ等に加えて、省水型機器(節水型便器等)を使用している。
	LR3 敷地外環境 ・適切な数の駐車スペースを計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境			0.33			2.9
1 音環境		3.0	0.15			3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		3.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能		3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		2.6	0.25			2.6
3.1 昼光利用		1.8	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気質環境		3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	規制対象品は全てF☆☆☆☆	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50			
2 喫煙の制御	4階喫煙室設置	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.2
1 機能性		3.0	0.40			3.0
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40			
1 広さ・収納性		1.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30			
1 広さ感・景観	3階事務室天井高3.0m及び窓設置	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	休憩室134.92㎡+自販機設置	5.0	0.33			
3 内装計画		1.0	0.33	1.0		
1.3 維持管理		3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	・WCの床材防汚性の高い材料(抗菌仕様) ・WCの床面は適度な水を使用して洗浄可能 ・埃の溜まりにくい設計(壁掛式小便器) ・大きく異なる床材の接近なし ・外壁面は耐候性の高い塗料を使用 ・外部鉄部は溶融亜鉛メッキ	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管・給湯管B(硬質塩化ビニル管) 汚水・雑排水管B(硬質塩化ビ管)	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		2.8	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	(事務所用途)基準階階高(3階)=5.2m (工場用途)階高平均(1~4階)=4.2m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	(事務所用途)壁長さ比0.098(3階) (工場用途)壁長さ比0.059(1階)	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.63	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m =0.89	2.5	0.50	-	-	2.5
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、擬音装置、節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		グリーン購入・エコマーク商品(床材)	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・躯体と仕上材が比較的容易に分別可能(LGS下地) ・再利用できるユニット部材(OAフロアー)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクル排出率93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	0.50	-	-	
2	振動	-	3.0	0.50	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たす ・広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		-	○	○	○	-	○	○	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	2.0	-	1.0	-	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	3.0		○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.7 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 0.5 外壁 0.6 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH - 屋光率 1.5% 自然換気有効開口面積率 3.3%
3.1.1 屋光率	1.5%
4.2.2 自然換気性能	3.3%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 4.7㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 45.2 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 3 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 30 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 5.2m、4.2m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.09、0.05
3.2 荷重のゆとり	床荷重 2900 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 25% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 63% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 16% 舗装面積率 46%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.63 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.89 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 長尺塩ビシート、♯エコマーク商品 OAフロア 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 86% 隣棟間隔指標Rw 8.89 地表面対策面積率 16.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 625㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 51.11 m 基準高さHb 14.08 m 緑地 3.977㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡